

1. 自己評価及び外部評価結果

作成日 令和2年12月3日

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4670105016
法人名	医療法人 浜友会
事業所名	グループホームはまゆう
所在地	鹿児島県鹿児島市喜入町6976番地1 (電話) 099-345-0099
自己評価作成日	令和2年11月6日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

医療体制が強化され、昼夜問わず入居者様、御家族、職員も安心して生活している。また、敷地内にある母体医療機関、併設の特別養護老人ホーム、グループホームとの交流会や勉強会、色々なイベントも積極的に行われており、職員のレベルアップ、入居者様の楽しみも増えている。

近隣には消防署、駐在所、市役所、小中学校、駅、銀行、郵便局、商店街などがあり、利便性に富んでいる。春は花見、夏は六月灯、夏祭り、小学校の運動会、地域のイベントにも参加している。又、毎日の免疫力アップの為のリハビリ体操は笑いを取り入れ、笑顔や言葉が増え楽しみの時間となっている。

誕生会、イベントごとに理事長に手品を披露して頂き、入居者様、御家族、参加者の方々を楽しませている。

地域の医療、介護事業所や認知症の方をサポートする上で、定期的に講師を招き勉強会を行い、資質の向上はもとより、地域の方々との交流にもなっている。

※事業所の基本情報は、WAMNETのホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.wam.go.jp/
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人NPOさつま
所在地	鹿児島市新屋敷町16番A棟3F302号
訪問調査日	令和2年11月26日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当ホームは、喜入市街地中央に位置し周辺には、指宿枕崎線喜入駅や郵便局、鹿児島市役所喜入支所、銀行やスーパー、コンビニエンスストアなどがあり、喜入小学校が近く、母体医療機関、法人関連施設(居宅介護支援事業所、通所リハビリテーション、訪問リハビリテーション、特別養護老人ホーム、グループホーム)があり、日常的に相互の協力体制が構築されている。

母体医療機関とは、24時間オンコール体制が図られ緊急時や重度化時など早い段階から主治医が中心となり本人、家族と話し合い、看取りについても柔軟に取り組んでいる。代表者は、認知症サポート医でもあり、行政機関などの要請により研修会の講師を務めるなど経験がある。特養ホームには地域住民との交流活動の場があり、地域サロン活動などを通じて社会貢献に努めている。

ホームや法人施設は、海岸から近いため津波や地震からの避難訓練などは地域住民も参加し関連施設と合同で防災訓練を実施している。防災放送が流れ、特養ホームは地域の方のシェルター機能もあり安心や信頼を得ており、防災頭巾や備蓄もあり防災係の職員が、定期点検を実施している。

新型コロナウイルス感染症拡大予防のため面会制限を実施しているが、利用者の体調や近隣、周辺地域の感染症の状況を踏まえ、日曜日はドライブ外出をしたり、近所を散歩して外気浴や気分転換ができるよう取り組んでいる。

家族とは、窓越しに面談をしてもらったり、電話やメールを活用して生活の状況や本人の様子を報告して安心していただいている。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	パンフレット、はまゆう便り家族会、推進会議、職員会議資料等に理念を載せている。また朝の申し送り時に理念を唱和し、理念を深めている。	理念は、玄関やリビングに大きく見やすいよう掲示されパンフレットに記載、朝礼で唱和し意識づけをしている。管理者は、運営推進会議の議事録にも記載し構成メンバーなどに周知している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人員として日常的に交流している	地域の方に呼びかけ、推進会議、敬老会に参加いただいている。地域の清掃や六月灯、花見に参加し顔なじみの方と話をする機会を作っている。現在コロナ禍で感染を避け、交流している。	職員は、自治会の総会に出席したり地域行事には利用者と一緒に参加したり清掃などに積極的に協力し、地域と関わり相互に協力関係を築いている。日頃から地域住民への声かけ活動も実施し地域を見守り日常的に交流している。	
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている	地域の行事に参加し、悩み事や相談事を聞いている。またボランティアの受け入れをし、交流して頂いている。現在コロナ禍でボランティアの受け入れは中止している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	隣接のグループホームと合同で定期的開催している。入居者様の現状を報告、検討し質の向上につなげている。また、避難援助をお願いし地域の情報交換の場となっている。現在コロナ禍で中止している。	会議は、今年1月開催を最後に構成メンバーを招集しておらず、利用者の暮らしぶりやヒヤリハット報告などの資料を郵送し電話で個別に意見を聴取し書面にて市担当者に報告するなどしている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	長寿あんしん相談センター主催の会議、研修に参加したり、推進会議など協力関係を作り気軽に相談、連絡出来るようにしている。現在コロナ禍で中止している。	ホームは、支所に近接しているため窓口にて職員と面談する機会も多く市担当者からも研修会の講師要請や住民も参加があり、市や地域との災害時の協力体制などを築き協力関係を築いている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	外出の訴えの強い利用者様に対し、スタッフ間の声掛け、見守りを行っている。 月1回の職員会議やカンファレンス時に身体拘束について勉強会を行い意見交換、検討をしている。	会議は、毎月開催されており外出傾向の方への対応については、職員のチームケアを発揮し見守りや声かけを徹底し身体拘束をしないケアに取り組んでいる。新型コロナウイルス感染症禍であり、外出もままならず面会制限を実施しているため精神的安定が図れるよう職員全員で取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修に参加し職員へ伝達している職員会議時に勉強会、検討会を行い、虐待防止に努めている。また言葉遣いについては、その都度注意をしている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度について研修に参加し勉強会を開いて学ぶ機会を持っている。それを活用できるように支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前にホーム内を案内し、説明、同意書を頂いている。定期的に主治医、家族、管理者、担当者を交え意見や問題点を話し合い改善に努めている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	常日頃から入居者、家族の要望、相談事を受け止めている。直ぐに解決出来る事はその日のうちに、他は職員会議で話し合い検討し解決している。現在コロナ禍で電話、メールで対応している。	家族との関係性を良好に保てるよう他県に居住される家族とはメールでやりとりをしたり、他家族とも電話で情報交換したり、介護サービスの質の向上やコロナ禍の対応で自分達にできることはないかなど日々職員会議で意見を出し合い、生命の安全を第一に健全な事業所運営に努めている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回の職員会議、カンファレンス時はもとより、常日頃から意見を聞いている。理事長、事務長へも報告し意見を頂いている。現在コロナ禍で食事会での意見交換はできない状態である。	管理者は、随時職員との面談を実施し、職員から提案された意見やアドバイスなどは、職員会議などで話し合っている。職員の定着率も良く、懇親会にて親睦を図ったり、資格取得を支援するなど働きやすい職場環境を整備している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	一人一人が生き生きと自信を持って働けるよう勤務時間の調整や職員の交流の場を設けて、気配りに心がけている。時に事務長に相談をしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>定期的な院内研修、外部研修に積極的に参加し質の向上に努め、その内容は他職員に伝える機会を作っている。現在コロナ禍でリモート研修に参加しフィードバックしている。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>鹿児島、谷山地区などの勉強会に参加し意見交換、情報収集に努めている。また事業所内での勉強会、意見交換も行っている。現在コロナ禍で出来ない状態である。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>入居前に本人、家族と面談し生活習慣や環境を把握、不安に思っている事、要望等に耳を傾けることで安心して入居できるよう心掛けている。</p>		
16		<p>○初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている</p>	<p>今までの介護経過を傾聴しその労をねぎらい、不安、要望を伺い安心して頂ける声掛けを行っている。</p>		
17		<p>○初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>主治医、本人、家族、前サービス担当者を交え、問題となる事柄等がないか検討をしている。</p>		
18		<p>○本人と共に過ごし支え合う関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている</p>	<p>入居者様を家族の一員として介護を支え、入居者様が出来る事は手伝って頂き、共に助け合っている。また入居者様から学ぶ機会を頂いている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	現在コロナ禍で玄関先での面会が可能となり笑顔が見らる。現状説明を行い、遠方の家族の方には電話、便り、メールで報告をしている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	散歩、買い物、墓参り、地域の行事に参加することで顔なじみ、知人の方に声掛けを頂いている。 現在コロナ禍で玄関先で知人の方と会話を楽しんでいる。	感染症予防を徹底しつつ、毎週日曜日は、近隣を散歩したり、地域をドライブして気分転換を図っている。馴染みの友人や知人が多く、母体医療機関の外来に来られた方などが面会に来られる。家族とは、買い物や墓参りに出かけていたが現在は面会制限をしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	コミュニケーションが取れる方は席を近くにし、コミュニケーションが取れない方には職員が介入しお互いの関わりが成立するよう支援している。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用〈契約〉が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他施設に移られた方には時々面会に行ったり、家族に声掛けし相談事に対応をしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人一人職員担当を決め、思い希望を聞く時間を作り、職員会議で伝え検討している。表情や言葉、行動で思いを把握したり家族からも情報を得ている。	利用者ごとに担当職員がおり、計画作成担当者は、「介護記録」の情報を参考に毎月のカンファレンスや職員会議などで本人の思いや希望などを話し合い、情報を共有するよう努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の情報収集や生活の中での言葉を傾聴し、これまでの暮らしを把握している。家族、知人、近隣者、面会者からも情報を得る機会を作っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	1日の生活の中で表情、機嫌、バイタル、食事量、排泄等を確認観察しながら入居者様の状態把握に努め、1日を本人らしく過ごせるように努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	家族面会や電話を定期的に行い日々の状態、イベント等を伝え本人、家族の思い意向を伺いカンファレンスで検討しプランに生かしている。	入居前の生活歴などを家族から聞き取ったり、関係者からの情報を参考に介護計画を作成している。職員は、日々の生活状況などを観察しカンファレンスでモニタリングを実施し目標やサービス内容等を確認し自立した生活の実現に向けてケアの方向性や目標の達成度などについて話し合っている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	経過記録やチェック表を記録することで、日々の様子や体調を把握している。カンファレンスで職員間の情報共有、介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の状況、要望に合わせて出来る限り対応している。職員での対応が困難な場合は院長、理事長に相談し対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域で行われる行事に参加したりボランティアの方と歌ったり、お茶を楽しんでいる。現在コロナ禍で出来ない状態ではあるが、それに代わるイベントを職員で盛り上げ楽しく過ごせる時間を作っている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	コロナ禍で他病院受診できない状況ではあるが、家族希望者には感染予防をし受診をしている。受診後は1週間居室で過ごして頂き、その期間はいつも以上に精神面の支援を行っている。	月2回、母体医療機関の訪問診療を受けているが、必要に応じて他科受診を支援しており家族が対応している。24時間オンコール体制であり、訪問歯科による訪問診療や薬剤師との連携が図れている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師によるアドバイスや主治医への報告を行っている。特変時は早めの報告や隣接のクリニックから指示をもらい協力も頂いている。介護職員は気づきを早めに看護師に報告している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院先の主治医、ソーシャルワーカーと連絡を取ったり、家族へ連絡し情報収集を行っている。退院前には主治医、家族を交えて退院後の対応や職員、入居者様の不安等についても話し検討している。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居前に終末期について説明、同意を頂いているが、定期的な話をしていない。急変時は本人、家族、主治医、職員間で担当者会議を行い、穏やかに終末を迎えられるよう支援している。	看取りの指針や意志確認書があり、ホームの方針を共有し重度化や看取りについても柔軟に取り組んでいる。母体医療機関の看護師との連携が図られ、早い段階から利用者や家族には事業所でできることを十分に説明をおこない、利用者や家族の希望に沿えるよう取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	毎月の安全対策委員会に参加しAED、急変時や危険予知について勉強会を行っている。現在コロナ禍でインシデント、アクシデント書類を提出し対応方法などを検討し職員間で共有している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>病院、隣接の施設と合同訓練を行ったり、夜間想定防火訓練を消防署の方に参加して頂き行っている。現在コロナ禍で自主訓練の形で病院の協力を得て実施している。</p>	<p>災害については、母体医療機関や関連施設などとの合同訓練を実施しており法人間の協力体制が構築されている。津波の際は、地元住民の避難の受け入れもしており、夜間想定防火訓練は、自主訓練を実施し消防署に報告している。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉使いや介助方法など、その方のプライバシーを確保し、個人を尊重したケアを実施している。職員会議等でプライバシー保護、個人を尊重したケアを実践するよう話し合っている。	利用者や家族の個人情報に触れることがないように写真などは事前に同意を取るよう努めている。また、不適切な言葉使いや声のトーンなどに注意してコミュニケーションを取るよう対応している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の行動や表情等を把握し、本人のペースに合わせてながら対応している。また職員が援助しながら出来るだけ本人に決めて頂いている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人一人の体調、行動を把握し食事や行事等調整している。また入居者様のペースに合わせた支援を行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	本人が服を選べるよう工夫したり鏡を見ながら髪を整えて頂けるよう声掛け支援をしている。また髪型も本人に決めて頂いている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	お茶を入れたり、野菜の皮むき、盛り付け、後片付け等出来る方には感謝の気持ちを伝えながらお願いしている。また旬の食材で楽しみが得られるよう配慮している。コロナ禍で会話を楽しみながらはできない状況である。	2ヶ月毎の誕生会、お楽しみ会には、弁当を注文し食事が楽しみなように配慮している。能力に応じたお手伝いもいただいております。感染症の予防策を講じながら、食事ができるよう取り組んでいる。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人一人主食、副食に分け記録、水分量は種類を細かく記録している。必要に応じ主治医に報告を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	日頃より口腔ケアの大切さを伝え毎食後うがい、歯磨きを行って頂き、仕上げを援助している。また定期的な歯科衛生士による口腔ケアを行っている方もいる。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄の訴えのできる方には直ぐに対応し、できない方は個々の排泄パターンを把握し、定期的に誘導出来るだけおむつをしないで済むように自立に向けた支援をしている。また排泄チェック表を付け排泄パターンを把握している。	排泄の声かけはさりげなくしているが、定時にトイレ誘導したり、本人からの訴えがあり誘導することもあり、なるべくトイレで排泄できるよう自立支援に取り組んでいる。夜間、ポータブルトイレを使用される方もいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	チェック表で食事量、水分量、運動、排便間隔を確認し個々に応じた対応をしている。排便を促す食べ物も工夫している。また、排便困難時は主治医に相談している。現在コロナ禍で散歩による運動が出来ない状態である。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	一人一人の希望を聞きながらタイミングに合わせて入浴を行っている。入浴拒否の方は、職員を変えたり、笑いを入れながら誘導している。	職員は、本人の希望やタイミングを見ながら、入浴して気持ちよく過ごせるよう取り組んでいる。入浴は、リラックス効果が期待できることから、より本人とのコミュニケーション活動に努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人一人の気持ちを聞きながら時間の状態に応じ対応し、安心して眠れるよう声掛け支援している。また、体位、衣類調整、照明など配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりを使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の目的、副作用、用量等についてカンファレンス時説明している。臨時薬はその都度申送りで伝え、誤飲しないようダブルクリックしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人の得意なこと、出来る事を把握し職員と一緒にいき、感謝の言葉を伝えている。また、個々にあった気分転換の支援を行っている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	入居者様の希望把握に努め、御家族の協力を得て買い物、墓参り、散歩等を実施している。現在コロナ禍でできない為、御家族様に買い物等お願いしている。	現在は、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、家族との外出も控えているが、本人からの依頼があれば家族に依頼しホームに品を届けてもらい本人の希望に沿うよう配慮している。職員は、散歩やドライブ外出にて気分転換がてら定期的に外出支援をおこなっている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>お金の管理が出来る方には持って頂き、お金を持つことで安心できる方には家族に確認し持って頂いている。また入居者様の希望を伺い、欲しい物等の買い物支援をし、お金の管理、家族への収支報告を行っている。</p>		
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している</p>	<p>帰宅願望の強い方や家族への思いの深い方には電話での支援を行っている。</p>		
52	19	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を取り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>玄関先には植物や花を植え、居間には季節の花を飾って、季節を感じて頂いている。また季節毎の作品作りをして飾っている。除湿器、空気清浄機を置き配慮している。換気、消毒も時間ごとに実施、掃除も小まめに行い入居者様が居心地良く過して頂けるよう援助している。</p>	<p>玄関前のプランターの花や共有スペースには季節の生花が活けられており、壁には、職員の顔写真や行事写真などが掲示されている。天窓があり、採光があって中庭の風情は和の雰囲気があり、落ち着きを感じる住環境である。また、畳スペースやソファが置かれ、加湿器を設置、換気や消毒をおこない清掃を心がけるなどして感染症対策を実施している。</p>	
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>会話の出来る方は同じテーブルで会話を楽しんで頂いたり、一緒に皆でテレビを見たり、お茶を飲んだりしている。塗り絵や洗濯物畳居室で趣味を楽しむなど、本人の思いを重視しながら声掛けしている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>入居前に使用していた品物、家財電気製品など持ち込んで頂き、安心してゆったりと過ごせるように支援している。</p>	<p>フローリング、畳部屋（2室）があり、本人の身体機能に合わせて手すりの位置を変更した方がおられる。使い慣れた品を持ち込み、居心地よく過ごしている。</p>	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>一人一人の残存機能を把握し、低下させることのないよう、入居者様の出来る事を活かし、出来るだけ自立した生活が送れるよう職員で検討し工夫している。</p>		

V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)		1 ほぼ全ての利用者の
		○	2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1 毎日ある
			2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない

61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らしている。 (参考項目：28)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1 ほぼ全ての家族と
			2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ毎日のように
		○	2 数日に1回程度ある
			3 たまに
			4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1 大いに増えている
			2 少しずつ増えている
			3 あまり増えていない
			4 全くいない

66	職員は，生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1 ほぼ全ての職員が
			2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て，利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て，利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1 ほぼ全ての家族等が
			2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない